

平成30年7月 第6回今金中学校改築に係る調査特別委員会

平成30年 7月30日 (月)

○議事日程

- (1) 調査報告書のまとめについて
- (2) その他

○出席委員

委員長	4番	向井孝一君	副委員長	9番	川上絹子君
	1番	岸徹也君		2番	小川ひとみ君
	3番	加藤三明君		5番	芳賀芳夫君
	6番	徳田栄邦君		7番	日置紳一君
	8番	村上忠弘君		10番	山崎仁君
	11番	上村義雄君		(議長)	村瀬廣君

○欠席委員 (0名)

○出席事務局職員

議会事務局長	成田光康君
議会事務局主幹	佐藤直樹君

◎委員長あいさつ

○委員長（向井孝一君） おはようございます。

本日は第6回特別委員会に月末のご多用の中、出席を賜りまして誠にありがとうございます。

今月の10日、11日と松前町、北斗市、江差町の3ヶ所を現地調査いたしまして、それぞれ皆さんの思いもあろうかと思いますが、9月の定例会に向けてまとめの部分に入っていきたいと思っておりますので、本日の会議は皆さんのご意見を賜りながら、まとめていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

◎開会の宣言

○委員長（向井孝一君） 只今の出席委員は11名で定足数に達しておりますので、第6回今金中学校改築に係る調査特別委員会を開会いたします。

これより議事に入ります。

始めに、調査報告書のまとめについてを議題といたします。

本委員会の調査報告書につきましては、9月定例会に提出し、委員長報告を行うことを決定しております。

残された調査期間もわずかとなりましたので、本日は調査報告のまとめのための意見集約を行いたいと思っております。

4月17日招集の第3回本委員会で今金中学校の改築につきましては、現況の用地の中で進めて行くことが確認され、用地の選定につきましては、既に結論が出ておりますが、改築に向けた教育環境全般等に対する特別委員会の意見をまとめたいと思っております。

先の先進地視察を参考に、委員の皆様から忌憚のない意見をいただきたいと思っております。

なお、校舎・体育館、グラウンド等の大きな項目に絞って、それぞれ意見をいただくことといたしたいのでありますが、それでよろしいですか。

ご意見がないようですので、そのように議論を進めていきたいと思っております。

それでははじめに校舎・体育館について、委員の皆様から意見をいただきたいと思っております。

いままで理事者側から出された資料、あるいは先日、先進地の現地調査を行った中で皆様方の感想をいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

ありませんか。校舎と体育館については松前町と江差町の2校を見てきたわけですが、それぞれ施工方法が違ったスタンスをとっておりましたので、その辺も踏まえながら感想をいただきたいと思っております。

なかなか出てこないようですので、議席順に発言をお願いしたいと思います。

岸君。

○1番(岸 徹也君) いま校舎と言うような話がありましたので、1つ、構造、規模について、私の感じたところを話をしたいと思えますけれども、まず本町の環境、また景観に配慮して、できれば可能な限り木を使用した構造とすることは私は望ましいのかなと。

そこは予算の部分もあるので、すべてできるかどうかは分かりませんが、そういう思いは持ちました。

また規模についても効率的な利活用というものを考えて、生徒数に見合った建築規模にすることが望ましいというふうに考えています。以上です。

○委員長(向井孝一君) 続いて、小川君。

○2番(小川ひとみ君) まず感想という部分では、両町とも災害を念頭に置いた地域に開かれた学校としての機能的設備になっていたということと、あとはその具体的なこととしては地域の人が使え専用玄関と、しっかりと学校と分離できる作り方をしていたということは、これからの学校としての役割を考えると必要なことなのかなと思えました。

そしてあと日常的に使う教室のスペースが大変広く、子どもが快適に過ごせる工夫がしてありました。

少人数指導のための教室数の確保がしっかりしていて学力向上に向けての積極的な姿勢を感じました。

教室のスペースが広がる分、全体的な広さは決まっているとは思いますが、そういう部分では複合的に専門的な教室ですか、専門教科の教室は複合的に使えるような工夫もされていたのかなと思えて、こういう点もこれから参考にしていってほしいかなと思えました。

考え方として、どういう学校にしたいかというコンセプトをしっかりとって、それを達成するためどのような工夫をするか、しっかりと順序立てた考え方をしていたので、やはりその最初のコンセプトというのが大切だなと思えました。以上です。

○委員長(向井孝一君) 加藤君。

○3番(加藤三明君) 先日の松前と江差の学校を見学しまして、それなりに私なりに感じていることは、各々いろいろな事情があつてのああいう建物にしたのかなという。

全体的なバランスとかその町村によっての思いもございますので、良いとか、悪いとか、別にしましてやはり今金は今金なりのいろんな条件のあるなかでの中学校になると思います。

これが一般的には最後の中学校、建物にもなるんじゃないかとは感じますので、できれば私としては小学校との絡みもありますので、それなりの後悔のない将来的な子どものための学校を目標に向かえば良いかなというふうに思っております。以上です。

○委員長(向井孝一君) 芳賀君。

○5番(芳賀芳夫君) 研修視察を終えて感じたことは、素晴らしい学校だなというのが第一印象であります。

江差にしても松前にしても、ただこれから想定される課題としては、皆さんご承知

かと思えますけども、国立の社人研ですか、2045年には今金町も3,000を切るというような状況が示されております。

これは予測でありますからどうか分かりませんが、まずはいまの中学校の建て替えについては問題はないと思えますけども、やはり効率の良い内装と言いますか、教室、更には人数は当然これから減少傾向に向かうわけでありまして、教育は1人でも10人も同じレベルの教育が求められるわけですから、十分その点に配慮した学校づくりをしていただきたいなというふうに思っております。

それと今金小学校も11年を経過したと、将来的には2045年となれば27年、将来的に小中一貫ということもやはりいまから視野に入れた建設に配慮すべきかなという考えを持っています。

それとグラウンド整備についてもですね、新しくいまの旧校舎のところに建てるんですけど、この辺も再度検討すべきかなと。

将来の一貫校にするということ考えれば、空き地としてやはりサッカー場なりに残すべきかなという印象を持っています。

それとこれからの生徒数については、かなり減少になるだろうということを考えれば、いまの社会にてらしてみるとかなりハイテクなそういう教育の場面、あるいは英語の小学校から導入されるということでもありますから、そういった対応についてもしっかりと対応していただければなというふうに思います。以上です。

○委員長（向井孝一君） グラウンド、事業費については次の項目で発言をいただきますので、いまは校舎と体育館の感想をいただきたいと思います。

徳田君。

○6番（徳田栄邦君） いままで資料をいただいた中で、基本設計にあたってのコンセプトが見えてこない中で結論を出せと言うのは私は難しいんじゃないかなと思うんですよ。

ただ1点言えることは、松前と江差を見てきたけれども、事業費に今金の積算と相当の開きがあるわけで、このへんのところをどういうような考え方を持って、コンパクトな学校にしていくのか、この辺のところをもうちょっと理事者と詰めていかなければ私は難しいんじゃないかなというふうに感じております。以上です。

○委員長（向井孝一君） 日置君。

○7番（日置紳一君） 松前と江差の2校を視察させていただいて、率直に松前は今金町には向かないのかなと。

江差町の話聞いた中では、いま今金がやろうとしている解体しながら建てていくと、そういう中ではそっちが向いているなど。

いま徳田議員もおっしゃってましたけど、26年完成ですか、4年位前なんだけども、この時にこれだけの値段でできている。

あの時も話をしたんですけども、地元の業者がやっているということで、ちょっと請負の価格が違うのかなと思うんですけども、いま出てきている大体の予算から見たらかなり10億も違うわけで、ただ形としては江差町をモデルとして、この校舎と体

育館を一体化させることで、この空地进行グラウンドに有効に、グラウンドはあとの話だと言っていましたけども、これ体育館を中にもってくることによって、かなりそれこそ野球場なんかはそのままで使えるんじゃないかなと私は思うんですけども、あとという話ですけども、できれば江差町モデルで、これに近い金額のものを建てていただきたいなというのが私の感想です。

○委員長（向井孝一君） 村上君。

○8番（村上忠弘君） 私なりの感想ということであれば、いま日置さん、徳田さんがおっしゃったような、校舎の中に体育館、今金小学校ができたようなスタイル、体育館と校舎と別々にするんじゃなくて、校舎、体育館、一体的な方が事業費だとか、そういったものも少し下げれることができるのかなというふうに思っていました。

校舎は生徒数が少なくなった時点での使い方だとか、そういったものも考えながらバリアフリーだとか、そういったものを、それから今金小学校を避難所だとかそういったところも考えて、これから特にそういった避難所も考えれば、バリア化だとかそういったものを十分考慮しながらやるべきじゃないのかなと思います。

事業費だとかそういったものについては、まだまだ検討するところがあるかなというふうに思っています。以上です。

○委員長（向井孝一君） 川上君。

○9番（川上絹子君） 私も江差と松前を見させていただいて、松前は松前で夢のあるようなそういう校舎であって良かったかなと思うんですけど、やはり今金の地形を考えて地盤悪さも考慮した時に、やはり江差中学校の形をある程度モデルにして建てるべきなのかなと思って考えました。

あとは予算は江差の方が凄く安くできていましたし、基礎の方にどれだけのお金がかかるか分からないんですけど、いまは専門的な話はその人方じゃないと分からないので、いまちょっとここで、できるだけ安く、利別川に沿っているということも考慮して、避難的なことも考えながら、それなりの学校が建てれるように、構想委員会か何かはこれからできてみんな検討していくんだと思うんですけども、そこに配慮していただきたいなと思っています。

○委員長（向井孝一君） 山崎君。

○10番（山崎 仁君） これまで理事者からいただいた、提出をいただいた資料、それから視察をした中でありまして、まずこの特別委員会の使命というのは、以前いただいた資料、今後のスケジュールの中で見るとほんと切っ掛けの話だと思うんです。

一番理事者側から求められていたのは用地をどうするかということ。

用地をどうするかっていうことは既に結論として現中学校跡地ということで委員会の考え方がまとまったわけですから、まずこれはこれとして今後考えていただきたいというふうに思う。これは決定事項だと思う。

それから、このスケジュールを見るとほとんどが31年4月から、コンペ方式で自主設計に入るのも31年度になってからということ。

それらを考えるとこの委員会で当然、協議・検討できるというのはごく限られた部分だというふうに思うわけですよ。

具体的な提案というのはまったくないわけであって、概算として提示された金額で言うと37億1,800万円、この金額さえもまだ議論をする段階にはないということ。

それぞれ委員の皆さんはなるべく抑えるようにという発言で私もそうだと思います。

できるだけ抑えた方が良くと思う。その抑えた方が良くという考えのもとにはこれからの公共施設の整備計画がある。

いまの財政状況、それから今後のスケジュールを考えた時に、この37億が妥当なのかというのは、この特別委員会ではまとめきれないと思うんですよ。

ですから、私は抑えた方が良くという考え方と同時に上限の金額を考えた中でそれにあつた建物ってできないのかなって。

なるべく抑えれというなかよりも具体的に今後の財政推計を考えた時に上限、この位の金額でできないかと。

そういう考え方を今後持ったらいかがかたと。今後というのは当然改選後においてはおそらく特別委員会の設置にもあるんだろうなんて思うんですけど、その場で協議をするという課題を残して特別委員会としては報告をまとめれば良いのかなという気がします。

これは体育館から、いま委員長がおっしゃったグラウンドは別だと言うんですけども、私はグラウンドも含めてそういう考え方を改選後の委員会で慎重に協議をするべきだというふうに思います。

○委員長（向井孝一君） 上村君。

○11番（上村義雄君） 今回の松前、北斗市、そして江差と視察してきた感想からまず述べさせてもらいます。

その感想は松前は松前の良さをいかした建て方をしている。

北斗市は北斗市としてのグラウンドの在り方ということを基本に置いた中でやってきているんだということを見てきました。

それから江差の中学の部分については、今金小学校の校舎を参考にされているということがあつたということです。

そういうまず感想としてはそういう部分が見受けられます。

そして江差の場合ですけれども、建物を建てる時の風の向きを上手く利用している。自然の風を利用した体育館であり、校舎の流れを作っている。

特にこれから地球温暖化とともに北海道でも30度を超える夏の暑さというのはあるわけですから、そういったところの風のうまく流れを利用することも検討の中にあつていいのかなというふうに感想をもってきました。

それからこの改築に向けた調査特別委員会の、山崎委員が言われたように総枠を決めて校舎そして解体も含め、そしてグラウンドの整備も含めて、この中学校に関する総枠を決める。

今金は今金の中で中学校のところに給食センターも設置というような動きも中にはあるようですけれども、そういったことを全部含めた中で総額をいくらにするのか。

これは財政的に今後この構築物があるわけですから、そういったところも含めて財政とにらみあわせながらやるべきだというふうに思います。

ただこの時点でこの特別委員会のまとめとしてそこにいくために、まだまだ理事者とのそういう接点も必要になってくると思いますし、今後の議論にかかってくるのかなというふうに思っております。以上です。

○委員長（向井孝一君） ありがとうございます。

校舎・体育館については江差方式が良いのかなという意見が多数を占めたような感じもしておりますので、意見集約についてはそういう方向で皆さんからの意見をまとめていきたいと思えます。

次に、グラウンド・事業費についてを議題といたします。

皆さんの方から何か。グラウンドについてご意見をいただきたいと思えます。

芳賀君。

○5番（芳賀芳夫君） 先程も言いましたけども、グラウンドについてはコンパクトな校舎ということでの取りまとめという委員長の話でございます。

現状のままで再利用できるのであれば利用すべきだなというふうに思えます。

将来的には1回目の委員会で理事者から説明のあった移設ということではありますが、将来的に小中一貫ということも視野に入れながら、その用地は確保しておく、そういう方向で進めていただければなというのが私の考えです。

○委員長（向井孝一君） 他にございませんか。

山崎君。

○10番（山崎 仁君） 考え方は先程も話したんですけども、特にグラウンド、体育施設に関しては総合体育館も建ててます。

それから健民グラウンドの活用もある。今後の児童生徒の推移を色々考えた中では町内のそういう施設の活用も当然考える必要があるのかなと思う。

専用グラウンド、専用の体育施設も必要だろうというのは分かるけども、財政的な状況を考えた時に町内の施設を連携できるような、そういう考え方も持っていただければなというふうな気がいたします。

○委員長（向井孝一君） 他にございませんか。

村上君。

○8番（村上忠弘君） いまの状態のグラウンド、グラウンドを移設するというのは水はけだとかそういったものが良くないということでグラウンドを移設したいという理事者側の説明なんですよね。

新たにグラウンドを移すということになると、大体グラウンドに係る部分は4億ですか、4億くらいかかると。

それはその陸上、それからサッカー、野球できる部分も含めて、更には敷地の整備だとかそういったものも諸々かかるから、当然、その4億では済まないんじゃないの

かなと思うんですよね。

いまのところそんなに水はけだとかそういうものが悪いのであれば、水はけの改善できるような方法、そういったものをしながらでも現状の形の中で使用することが、使用できる方法も考えるべきかなというふうに思うんですよね。

今金町にとって色んなこれからならなければならないものも諸々先を見通せば、今金町のこれから身の丈に合ったようなことをやっていかないと、今金中学校で、中学校を立て替えることに関してはまったく異論はないんですけど、やっぱりそういった生徒数の減少だとかそういったものを見通した中でいけば良いし、そういったグラウンドに大きなお金を投資するんじゃなくて、なんとか改善できるような方法で現状のグラウンドの使用も考えるべきと私は思うんですけども。

グラウンド、4億もかけるのであれば思い切って人工芝、そこまでやってしまった方があとの維持管理だとか、そういったものも楽なのかなというふうに、松前ですか、人工芝的な、そこまでやってしまった方がいいかなというふうに思うんですけどね。

その前にはいまのグラウンドを何とか改善しながら使用も検討してもらいたいというふうに思います。

○委員長（向井孝一君） 他にございませんか。

いままでグラウンドについての意見は現況を再利用する方向で検討していただきたいという意見が多いです。

次に、事業費等について皆さんのご意見を頂戴したいと思います。

皆さんからは事業費については総枠を決めた中でやってほしいという意見もございますけども、その総枠の基準というのが我々も分かりませんし、理事者からもきちんと出しておりませんので、それを文言としてまとめる場合には要望くらいしかないのかなという気がするんですけども。

何十億っていう総枠の根拠というのは中々ここでは示せないと思うんですよね。

要するに財政状況を見ながら、圧縮した形の中でやってほしいということだと思うんですけども。

上村君。

○11番（上村義雄君） 先程言ったように、総枠を決めるということに対しては理事者との協議がなされていないわけですよね。

ですから9月の定例会までに結論を出すというのであれば、当然それに向けた理事者との意見交換をしていかなければならないということだと思います。

ですから、それをやるということであれば今後の部分で、要するに早急に自主設計、基本計画までやるんだという理事者の話ですから。

だから9月に結論を出そうということなのであれば、そこまで踏み込んで議論していかなければならないのかなと私はそう考えますけど。

○委員長（向井孝一君） 分かりました。町理事者に対しては確認が必要と認めますので、その機会を1回作らないと最後のまとめの文言に入っていけないのかなという気がしますが、そういう方向でよろしいですか。

要するに理事者側の今後のスケジュールというものをきちんと聞いておかないと、こっただけで勝手にこうだというわけにはいきませんので、次回の特別委員会に理事者とのそういう対応をしていきたいと思っておりますけれども、そういう方向でよろしいですか。

全体を通して、他にありませんか。

ないようですので、意見も出尽くしたと思っておりますので特になければ次回開催日程を協議いたします。

次回の日程だけをきょうは決めていただきたいと思います。

8月の予定表を皆さんもらったと思っておりますけれども、事務局はいつころ良いですかね。暫時休憩いたします。

休憩 10:35

開議 10:52

○委員長（向井孝一君） 休憩を閉じ、開議いたします。

休憩中に皆様から色んなご意見がございましたけれども、本特別委員会としては先程来、皆さんからご意見でていますように全体的に事業費については圧縮をしながら建設に向けて考えていただきたい、こういう文言ではなりませんけれども、それに近いような文言でまとめていきたいと思っておりますが、そういう方向でよろしいですか。

○6番（徳田栄邦君） 理事者の話は聞かないの。

○委員長（向井孝一君） いまこの時期で理事者の意見をあれしてもきちんとした事業費というのは出てこないしょ。

○6番（徳田栄邦君） いま試算で37億という金額が出てきているけれども、基本設計にあたるにあたって理事者側はどういうコンセプトで、どのような目的を持って、こういうような建物を建てたいと、それにはどのくらいの事業費がかかるんだということは基本設計を出す前に、年内には既に腹積もりは決めなきゃならないべき。

それが無い中で試算したから、37億かかりますから、これで行きますってことをはっきり言っているわけではないんですよ。

だから理事者の意見を聞かなかつたら前に進まないですよと言っているんです。

まだ理事者がどういうふうに行きたいという、それが出てきてないです。

この試算した金額だけで行きたいって言っているわけではないでしょ。

だからそれがはっきりこの37億でいきたいときているのであれば、議会としてはそうはいかないと、財政やそれらのことを全部勘案した時にこれくらいまで抑えなければ財政的に無理ですよということも言えるけれども、まだ理事者が何も言っていない、ただ試算した金額だけを出した中で、どうなるかも分からない中で、それは特別委員会でそんな結論というのは私は出すべきではないと思っておりますよ。

○10番（山崎 仁君） 委員長、休憩前に言っていることと、休憩後に言っていること違うよ。

○委員長（向井孝一君） あのね、休憩前には理事者との懇談会をやるという日程の中

で模索してきたんだけど、総事業費については圧縮する方向でどうですかという方向でまとめたいということで、そこに異論はなかったんですね。

あくまでもそういう日程で行くと大変厳しい日程になるので、特別委員会がいまやろうとする9月定例に向けてやろうとすればあと2回くらいしか持てないんですよ、会議は。

という日程の中でどこまでいま理事者の考えを求めるかというのは、理事者と実際協議しないと分かりませんが。

暫時休憩します。

休憩 10:56

開議 11:05

○委員長（向井孝一君） 休憩を閉じ、開議します。

理事者に対する確認事項が必要であるということですので、いま日程を調査しましたら8月20日の午前10時から空いているようでありますので、そういう日程で次の特別委員会を決めたいと思いますが、それでよろしいですか。

○10番（山崎 仁君） 20日は欠席になります。20日は不在です。

○委員長（向井孝一君） どうしようもないですね。午前10時から。

その何を議題といたします。

特にならぬようですので、その何を終わります。

◎閉会の宣告

○委員長（向井孝一君） それでは本日の特別委員会はこれを持ちまして閉会といたします。ご協力ありがとうございました。

閉会 11時06分